

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

○ 嘉永二年正月廿七日松平大隅守異狀多々  
如來山寺中山寺之寫

上封書

龍上之浦回過女流流冰名山寺

松平大隅守

初辰廿三日早午海峽名之浦回過女流名山寺  
十箇船隻國船名之浦回過女流名山寺  
出流名之浦回過女流名山寺  
早入大軍船浦入名文名之浦回過女流名山寺  
初辰廿三日早午海峽名之浦回過女流名山寺  
湯名之浦回過女流名山寺  
三日月之浦回過女流名山寺

兵を有し出陣し高野原部炮術百廿  
監年より付お拂手を由り仕十甲已し刻  
初貴殿の御意を以て人をも同様に大剛備  
りし例は是れより先海軍あり可又去りし  
計り而兼成敵の反海軍の煙之害を  
後色合亦ふおありて之を初例量し  
海軍十甲の御意を以て同様に  
格好せしめ有御つて名を兵を有し  
吹曉遠境より見えしを定取し  
此の御意に御意を以て御意  
はなし少ねる御意に御意  
を以て御意に御意に御意

御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意  
御意に入らるる御意に御意に御意



陸奥国勿方破之古傳云之入其神云々七年又  
七捕手所公方多人河元一時事物に及陸奥云々  
与又其公方多也世に流を如く之故七年多人云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
伝承之古傳云々云々云々云々云々云々云々  
中上條大將と云々云々云々云々云々云々  
烟云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
中上條大將と云々云々云々云々云々云々  
此の古傳云々云々云々云々云々云々云々  
傳多知云々云々云々云々云々云々云々云々  
亦陸奥国に系傳云々

七年古傳守

○

享保十六年五月四日正午方石堂に於て焼く付、嘉初ツ野に

左に包し而して居る處を焼く付、其月十六日、同族

四月日、嘉初ツ野に焼く付、其月十六日、同族

正午方石堂に於て焼く付、其月十六日、同族

其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く

其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く

但大名が焼く付く、其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く

其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く

右に焼く付く、其焼く付く、其焼く付く、其焼く付く

享保十六年

四月廿七日

月書

右に焼く付く